

立佞武多の歴史

立佞武多概要

立佞武多は、明治中期から大正初期にかけて行われた五所川原市のネプタ祭で「立佞武多」の名称は平成の復活の際に名付けられたものです。高さ約12間(約21メートル)の山車が、なんと数百人もの若者に担がれて町内を練り歩いたといわれます。現代の大型立佞武多は、およそ高さ23m、重さ19tの大きさを「立佞武多の館」内の「立佞武多製作所」で製作されています。その題材は歴史上、物語上の人物などにこだわることなく、その時勢を反映したものも製作されています。祭りは、毎年8月4日～8日の5日間の日程で開催され、中心市街地を練り歩きます。忠孝太鼓を先頭に、市内の町内・高校・祭り団体・企業などの大中小の様々なねぶた・立佞武多とともに3台の大型立佞武多が運行され、囃子や踊り手が華を添えます。五所川原市民の「もつけ」魂が生んだ立佞武多、その迫力と楽しさを是非ご体感ください。



立佞武多の変遷と復活

豪商・大地主たちの力の象徴

明治中期から大正初期、五所川原は津軽の豊かな農林水産資源の中継地として大いに栄えていました。そうした中で繁栄していた豪商、大地主が自分達の力の象徴として、夏祭りに山車(ネプタ)を出すようになりました。競い合いが始まり、ネプタはどんどん巨大化し、高さ20mを超えるようになっていきました。30mにも及ぶネプタもあったと伝えられています。街角で出会うと言ひ合いから喧嘩ともなり、互いのネプタを壊したりすることもあったようです。ヤッテマレの掛け声も、「やってしまえ!」からきたものと言われております。



消えゆく巨大ネプタ

大正末期から昭和にかけて、電気の普及とともに街中に電線が張り巡らされ、ネプタは高さが制限されたことにより次第に小型化していきました。さらには戦争の足音が近づくとともに祭りも縮小していきました。その後、戦争、そして、戦中(S19年)・戦後(S21年)の2度の大火により製作資料のほとんども失われ、大型ネプタは次第に人々の記憶から薄れていきました。昭和20年代中頃から各町内の合同運行が再開しましたが、巨大ネプタが登場することはありませんでした。昭和30年代後半には企業によるネプタも加わり、昭和40年代には、経済の発展とともに夏祭りとしての賑わいを再び見せていました。しかし、昭和末期から平成に入ると、バブルの崩壊、地域経済の悪化、少子高齢化などによりその賑わいも再び失われつつありました。



発見、そして膨らむ夢

平成5年、祖父が県内、東北までにもその名を轟かせた豪商「布嘉(ぬのか)」に仕えた大工であったという方の家から、巨大ネプタの台座の設計図が見つかり、大きな話題となりました。すると翌年、明治から昭和初期の五所川原を時代背景にした劇が市民団体により演じられました。その劇中に高さ7mの巨大なネプタが突然登場し、大変な驚きと喝采を浴びました。その劇に関わったスタッフの中で巨大ネプタへの思いが徐々に大きくなっていきました。



歴代立佞武多

- 表紙右上より
- 平成10年 初代 親子の旅立ち
- 平成11年 第2代 鬼が来た
- 平成12年 第3代 軍配
- 平成13年 第4代 北の守護神
- 平成14年 第5代 白神
- 平成15年 第6代 五穀豊穡
- 平成16年 第7代 杓
- 平成17年 第8代 炎
- 平成18年 第9代 絆
- 平成19年 第10代 芽吹き心荒ぶる
- 平成20年 第11代 不撓不屈
- 平成21年 第12代 夢幻破邪
- 平成22年 第13代 又鬼
- 平成23年 第14代 義経伝説 龍馬渡海
- 平成24年 第15代 復興祈願 鹿嶋大明神と地震鯨
- 平成25年 第16代 陰陽 梵珠北斗星
- 平成26年 第17代 国性爺合戦 和篠内
- 平成27年 第18代 津軽十三湊伝説 白鬚水と夫婦梵鐘
- 平成28年 第19代 歌舞伎創生 出雲阿国
- 平成29年 第20代 纏
- 平成30年 第21代 稽古照今 神武天皇、金の鵄を得る
- 令和元年 第22代 かぐや
- 令和3年 第23代 暫
- 令和5年 第24代 素戔鳴尊

1世紀ぶりの復活

平成8年、巨大ネプタを作ろうと市民有志が団結しました。「立佞武多(たちねぶた)」と命名され、市民の募金、材料の支援、技術力の提供などたくさんの思いが一つとなり、ついに高さ16mの立佞武多「武者」が復活しました。岩木河川敷に展示されたネプタを見ようと、市内はもちろん近隣の市町村からも多くの人が訪れました。そして1週間後、古習に合わせ火が放たれ、昇天していく幻想的風景を携わった有志たちは感動と達成感に満たされ見守っていました。貴重な思い出の1頁にと・・・



巨大ネプタ出陣

復活の余韻に浸っていた翌年の平成9年、青森県から五所川原市に対し、平成10年12月に東京ドームで開催される「活彩あおもり大祭典」に立佞武多展示の依頼が届きました。市は、その参加とともに平成10年の夏祭りでの立佞武多運行を決定し、以降「五所川原立佞武多」として青森県を代表する夏祭りの一つとなりました。市は制作費はもちろんのこと、運行の妨げとなる電線の地中化や段差の解消など積極的に運行復活を支え、市民は手探りながらも知識と労力を出し合っ、平成10年夏、ついに立佞武多「親子の旅立ち」の運行がスタートしました。平成16年には、20mを超える大型立佞武多3台を格納し、常設展示する「立佞武多の館」がオープンし、祭り期間中以外でも立佞武多を見ることができるようになっています。



25周年 特別企画
「親子de立佞武多」
出陣

市内の子どもたちが親子で参加！
 立佞武多の魅力と祭りの楽しさを体感



金太郎 高さ約10m 制作者/鶴谷昭法
 主催/(公社)五所川原青年会議所

History of Tachineputa

立佞武多・ねぶた出陣日程

※運行順ではありません。出陣内容が変更になる場合もございます。

	4日◎	5日◎	6日◎	7日◎	8日◎
親子 de 立佞武多	○	○	○	○	○
ねぶた自主制作運行団体 誠和會	○		○		○
あどはだり會	○	○	○	○	○
漣 - REN -	○	○	○		○
和 會	○	○	○	○	○
蘭 喜 會	○	○	○	○	○
三振り會	○	○	○	○	○
富士電機津軽セミコンダクタ株	○			○	○
五所川原高等学校	○		○	○	○
五所川原農林高等学校	○	○		○	○
さかえ立佞武多	○	○	○	○	○
大型立佞武多「素戔鳴尊」	○	○	○	○	○
大型立佞武多「 暫 」	○	○	○	○	○
大型立佞武多「かぐや」	○	○	○	○	○

主催/五所川原立佞武多運営委員会

五所川原商工会議所 TEL 0173-35-2121
 (一社)五所川原市観光協会 TEL 0173-38-1515

2023 GOSHOGAWARA TACHINEPUTA

運行25周年 25 Anniversary

1世紀の眠りから覚め、25年。次世代へと魂は受け継がれていく。ヤッテマレの掛け声とともに奥津軽の夏がもってくる。

五所川原

たちねぶた

立佞武多

暫 8/4(金) 8/8(火)

午後7時～立佞武多・ねぶた合同運行

第72回 五所川原花火大会 8月3日(土) 午後7時30分～9時

立佞武多公式サイト

祭り運行 YouTube 8/4.6.8 配信